

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

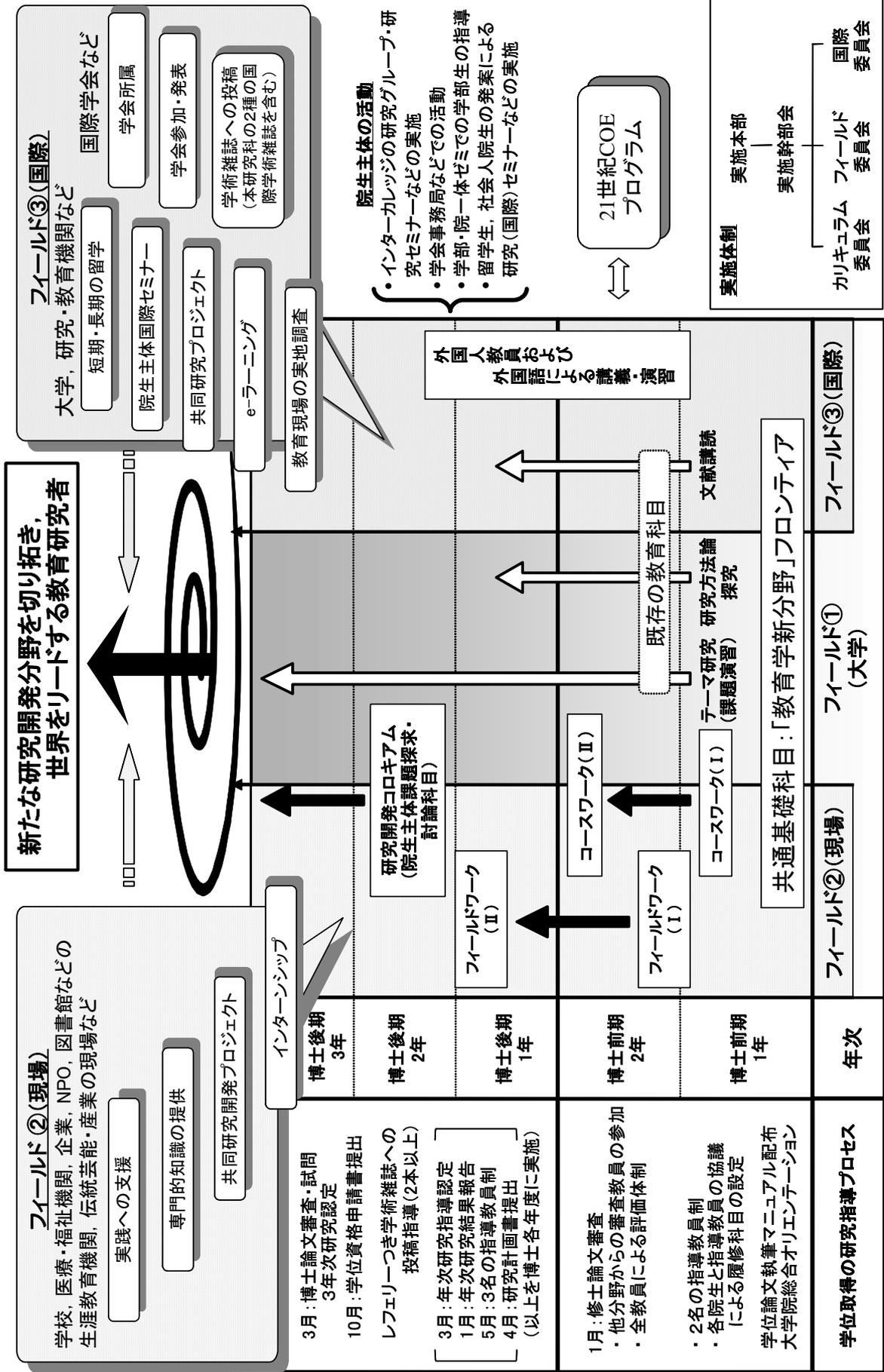
◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	京都大学	整理番号	a014
1. 申請分野(系)	人 社 系		
2. 教育プログラムの名称	理論・実践融合型による教育学の研究者養成		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 教育学・心理学・社会学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (教育学・教科教育学・教育心理学・臨床心理学・教育社会学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 教育学研究科・教育科学専攻〔博士前期課程〕 教育学研究科・教育科学専攻〔博士後期課程〕	<u>研究科長(取組代表者)の氏名</u> 川崎 良孝	
	(その他関連する研究科・専攻名) 教育学研究科・臨床教育学専攻〔博士前期課程〕 教育学研究科・臨床教育学専攻〔博士後期課程〕		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本学教育学研究科は<u>教員養成を目的としない稀少な教育学研究拠点</u>として、学校教育はもちろん生涯にわたる人間形成を視野に入れ、<u>臨床と教育</u>の分野で既成の教育学と異なる独自の研究スタイルや領域を切り拓いてきた。近代自然科学の知見を性急に摂取し狭隘な客観主義に傾斜した今日の教育学に対しては、理論と実践の乖離や個々の人間の固有性の軽視といった批判が、世界的に高まっている。本研究科は開設以来こうした教育学研究に対抗し、「<u>理論・実践融合型</u>」<u>臨床的フィールド学</u>として実績をあげてきた。本事業では、これまでの研究・教育システムをさらに充実させ、海外の拠点および他の分野との連携プロジェクトを院生主体で推進することにより、<u>理論・実践融合型による教育学新分野を切り拓き、世界を先導する若手研究者</u>を養成する。これは京都大学の基本理念に適うもので、京都大学としても負担金を措置することとしている。</p>			

機 関 名	京都大学	整理番号	a014
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>本研究科は近代以降の教育学研究にみる弊害を憂慮し、一貫して日常的な教育実践に関する臨床的・フィールドワーク的研究から、ボトムアップによって理論生成をめざす研究・教育プログラムを展開してきた。21世紀COEプログラムでは心の総合的理解を機軸とした研究・教育拠点に参画し、隣接諸科学の研究者と共同して国際的に活躍できる若手研究者育成のために、国際セミナーの定期開催や、アカデミック英語コースの開設、臨床実践の支援システムの整備など、研究・教育の内容と方法の改善に取り組んできた。</p> <p>本事業は、上記の成果を鑑みつつも、2専攻の横断的な組織編成を視野にいたした履修システム全体を実質化し、臨床実践主体のフィールド学としての教育学新分野創成を念頭においた国際的な若手研究者の養成を目的とした取組である。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>教育学には今、学校教育の枠で人間の生成変容を扱ってきた旧来の学校教育学に代表されるような狭隘な人間理解を克服し、隣接の人間諸科学ともフィールドを共有し共同研究を展開する理論・実践融合型の新分野創成が求められている。臨床的フィールド学としての教育学の研究・教育プログラムを一貫して推進してきた本研究科は、今回の事業で以下の3点を主眼としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 臨床実践型学修の系統化(テーマ研究、研究方法論探究、コースワーク、フィールドワークによる臨床実践学修の仕上げとして、学位論文執筆段階の院生主導による「研究開発コロキウム」の開設) ② 国際レベルで活躍できる資質向上のための実践(既設の外国人教員および外国語による講義・演習、すでに推進中の海外提携大学との国際プロジェクトへの院生の派遣、院生の企画立案による国際セミナー、シンポジウムの定期的開催などの強化) ③ 学位取得プロセスの明確化(臨床実践の成果報告書、海外でのフィールドワーク報告書も含む) <p>以上をサポートするため、「実施本部－実施幹部会－カリキュラム委員会・フィールド委員会・国際委員会」という体制を整備する。それは本教育プログラムの実質化を保障するにとどまらず、本事業の終了後を視野に入れている。すなわち組織的には従来の縦割りの教育・研究体制では限界があり、研究プロジェクトに柔軟に対応できる横断型の体制への移行が必要である。それと同時に、地球規模の急速な動きに柔軟に対応できる大学院教育課程の構築、新分野を切り拓く研究者の育成が不可欠である。本事業はそうした発展に向けての重要な一歩となる。</p>			

6. 履修プロセスの概略図

理論・実践融合型による教育学の研究者養成



機 関 名	京都大学	整理番号	a014
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 488 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 533 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 916 633 949">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 965 1428 1238" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="172 965 1428 1142">・教育分野において、臨床的・フィールドワーク研究を取り入れた理論・実践融合型研究者養成という目的は、現代的概念に対応した理念と言える。また、教育プログラムの目的を実践するための教育組織もこれまでの豊富な経験を有しており、横断的協力体制を確立するために「統合本部」を設置するなど、実質的な教育体制の整備に工夫がされている点は評価できる。 <li data-bbox="172 1158 1428 1238">・教育プログラムの実現に向けて、理論と「実践」との統合を図るための教育課程の編成などの面で、一層の工夫が必要である。 			